



軽自動車普及台数がついに2世帯に1台超えに

# 100世帯当たりの普及台数で50.6台

2011年3月末の軽自動車普及台数は100世帯当たり50.6台となりました。これは全国軽自動車協会連合会が総務省調べの「住民基本台帳世帯数」(5354万9522世帯)と国土交通省調べの「自動車保有車両数」(2707万3579台)をもとに算出したものです。昨年3月末は同49.9台と、ほぼ2世帯に1台という軽自動車の普及状況になっていましたが、今回のまとめで軽自動車普及台数が初めて2世帯に1台を超えたこととなります。

軽自動車普及台数は1977年に100世帯で15.9台でしたが、1988年に30台を超え、1990年には34.8台となりました。その後も軽自動車規格の拡大などがあり、普及台数は上昇。2000年には100世帯で40台を超え40.8台、2010年には49.9台とほぼ2世帯に1台軽自動車が保有されている状態になっていました。

いわゆるバブル経済の崩壊から20年、輸出産業を除いて国内景気は目覚ましい回復をしませんでしたが、この低迷した景気動向を追い風に軽自動車は着実に国内保有を伸ばしていました。

昨年3月末との比較で、軽自動車普及の上位ベスト10はほぼ不動。1台当たりの世帯数で見ると、1位鳥取1.02世帯、2位佐賀1.02世帯、3位島根1.04世帯、4位長野1.04世帯、5位山形1.04世帯となり、上位5県はほぼ1世帯に1台、軽自動車が保有されています。

一方、普及してない地域でも、昨年1台当たり9.17世帯だった東京都は9.11世帯に、また神奈川県は1台5.00世帯から4.95世帯となっており、軽自動車普及が低かった首都圏地域でも軽自動車の普及が進んでいます。定年退職でリタイアした世帯の増加や、エコ意識の浸透などにより、カーライフの見直しや維持費を考え、軽自動車を選択するケースが増えているのかもしれない。

軽自動車の販売動向をみると、エコカー補助金終了後、総市場に占める軽自動車の販売比率は徐々に高まりだしています。2010年7～9月の軽自動車販売比率は32.6%まで下がりましたが、再び上昇に転じ、2011年4～6月は38.6%となりました。円高の影響で景気がさらに悪化すると、軽自動車を選択するユーザーが増えることは確実で、軽自動車の販売動向は目が離せません。

## 軽四輪車保有台数と世帯当たり普及台数(都道府県別)

(平成23年3月末現在)

■ 軽自動車普及が進んでいる県のトップ10 ■ 1台当たり世帯数で2世帯以上を保有している9都道府県

都道府県	軽自動車保有台数	世帯数	100世帯当たり台数	1台当たり世帯数	順位(前年順位)
北海道	1,005,841	2,670,572	37.7	2.66	39(42)
青森	414,504	574,712	72.1	1.39	27(29)
岩手	414,568	421,211	98.4	1.02	※(16)
宮城	541,347	786,115	68.9	1.45	※(36)
秋田	344,031	420,351	81.8	1.22	15(15)
山形	382,450	399,045	95.8	1.04	5(5)
福島	597,276	703,832	84.9	1.18	※(22)
茨城	781,085	1,132,370	69.0	1.45	31(33)
栃木	510,297	760,385	67.1	1.49	32(34)
群馬	602,866	772,913	78.0	1.28	21(24)
埼玉	1,063,054	2,944,273	36.1	2.77	41(44)
千葉	955,106	2,599,799	36.7	2.72	40(43)
東京	696,073	6,344,540	11.0	9.11	44(47)
神奈川	801,048	3,962,170	20.2	4.95	43(46)
山梨	295,395	338,154	87.4	1.14	9(9)
新潟	749,220	854,420	87.7	1.14	8(7)
富山	326,845	391,022	83.6	1.20	12(13)
石川	313,828	448,539	70.0	1.43	29(31)
長野	786,446	819,637	96.0	1.04	4(4)
福井	256,169	274,156	93.4	1.07	6(6)
岐阜	597,081	751,299	79.5	1.26	19(20)
静岡	1,010,720	1,451,812	69.6	1.44	30(32)
愛知	1,391,571	2,918,116	47.7	2.10	36(39)
三重	577,225	740,717	77.9	1.28	22(21)
滋賀	397,140	517,676	76.7	1.30	24(26)
京都	453,171	1,125,013	40.3	2.48	38(41)
大阪	1,024,287	3,932,806	26.0	3.84	42(45)
奈良	305,538	560,521	54.5	1.83	34(37)
和歌山	359,416	430,260	83.5	1.20	13(12)
兵庫	958,637	2,364,110	40.5	2.47	37(40)
鳥取	223,314	227,848	98.0	1.02	1(1)
島根	267,636	277,675	96.4	1.04	3(3)
岡山	651,985	787,179	82.8	1.21	14(14)
広島	732,107	1,247,501	58.7	1.70	33(35)
山口	461,159	645,165	71.5	1.40	28(30)
徳島	271,560	321,753	84.4	1.18	11(11)
香川	333,533	413,948	80.6	1.24	16(17)
愛媛	468,275	633,350	73.9	1.35	26(28)
高知	278,444	350,151	79.5	1.26	18(19)
福岡	1,163,303	2,198,679	52.9	1.89	35(38)
佐賀	305,460	312,104	97.9	1.02	2(2)
長崎	456,325	613,611	74.4	1.34	25(27)
熊本	579,406	735,976	78.7	1.27	20(23)
大分	396,949	511,536	77.6	1.29	23(25)
宮崎	437,300	504,234	86.7	1.15	10(10)
鹿児島	631,571	789,406	80.0	1.25	17(18)
沖縄	503,017	568,860	88.4	1.13	7(8)
全国計	27,073,579	53,549,522	50.6	1.98	

※岩手・宮城・福島の3県は、22市町村分の世帯数が未集計のため、22市町村分を平成22年の世帯数で集計した参考値。順位から除外した。

なお、今回の集計では東日本大震災の影響で岩手、宮城、福島3県の22市町村で世帯数が調べられなかったため、3県の数

値は22市町村分について前年の世帯数をもとにした参考値となっています。3県は順位も除外しています。

仙台・岩沼両市内の被災車両の回収作業にひと区切り

# リサイクル業界そろって被災車両と車両犠牲者の慰霊祭を行う



鎮魂の言葉を述べる大橋理事長



車両回収に協力した関係者が一堂に会した慰霊祭

東日本大震災で被災した車両と被災車両に乗り合わせていて犠牲になった人達の鎮

魂を祈る「東日本大震災車両・車両犠牲者慰霊祭」が7月27日、仙台市宮城野区蒲生の背後地3号公園で行われました。

NGP 協同組合は4月から仙台市、岩沼市で日本ELVリサイクル機構やSPNクラブ、宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合などとともに東日本大震災の被災車両回収ボランティアに取り組んできました。慰霊祭は、回収した車両のリサイクル処理が始まる前にひとつの区切りをつけるため、回収事業に取り組んだ自動車リサイクル業界関係者が集まり、執り行ったものです。

津波被害にあった車両には運転していた人の大切なものや思い出につながる品々が残っていたりすることが多く、回収作業に取り組んだ人たちは、心を痛める思いをすることも多かったそうです。

慰霊祭で挨拶に立ったNGP 協同組合の大橋理事長は、「東日本大震災で犠牲になった方々のご冥福をお祈り申し上げます。回収作業はおおむね終了し、ひとつの区切りをつけますが、本格的な復興作業はこれからです。お役にたつことがあれば引き続き協力していきたい」などと述べました。

## 「環境広場さっぽろ」にNGP北海道支部が出展

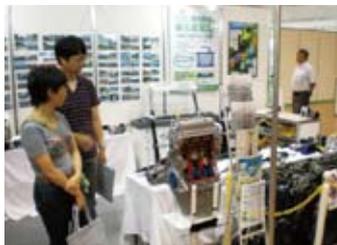
7月29日から31日の3日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで開かれた環境総合イベント「環境広場さっぽろ2011」にNGP 協同組合北海道支部（福田健志支部長）が出

展しました。環境技術や環境保全の成果を伝え、互いに学び合うことを目的としたこのイベントは今回で14回目を数え、札幌市の夏のイベントとして定着しています。

流れをPRしました。主催者の発表によると、3日間トータルの来場者は3万3354人。夏休み期間で親子連れの姿が目立ちました。

自動車関連ではトヨタ自動車、ホンダ、天然ガス自動車北海道、クリーンディーゼル普及促進協議会、札幌地方自動車整備振興会などが出展しました。エコカー試乗会が行われ、来場者は最先端エコカーの走り確かめていました。

NGP北海道支部はリユース部品を展示するとともに、リターナブル梱包材によるCO<sub>2</sub>排出抑制への取り組みを紹介しました。また、パネルとともに廃車のプレス材を展示し、リアルな廃車処理の流れを解説しました。



節約志向でリユース部品への関心は高い



家族連れ、子供たちにも積極的にPR

今回は道内外から119企業・団体が新・省エネルギーや環境啓発など6つのゾーンに分かれて出展、この中でNGP北海道支部はリサイクルゾーンにブースを設け、リサイクル部品の有効性や廃車処理の

## NGP25周年記念祝賀会を開催

NGP 協同組合は、1985年に「西日本グッドパーツグループ」としてスタートして25周年を迎えたことを記念し、10月28日に福岡市中央区の「ヒルトン福岡シーホーク」でNGP 創立25周年記念祝賀会を開きます。25周年の記念事業として、全国の小学生を

対象にしたエコ絵画コンクール「きれいな地球のために」を実施し、残しておきたい風景や生き物の絵を募集、タペストリーを作り、記念祝賀会で発表する予定です。

さらに、子どもたちのためにいつまでも住みよい地球を残していきたいというNGP協

同組合の願いを込めたロゴマークを作成しました。青い地球は、強い結束と笑顔で自動車リサイクルの普及・発展に挑戦し続けるNGP組合員の笑顔であり、地球も子どもたちも笑顔になることを表したものです。



〈25周年ロゴマーク〉  
青い地球の笑顔は、子どもたちの笑顔、NGP組合員の想い

### NGP 今月のCO<sub>2</sub>削減量

#### リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成23年7月: **6,762 t**

NGP 1月からの累計: **46,403 t** (全12団体 1月からの累計 **82,882 t**)

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO<sub>2</sub>の削減量を利用者の方々に知らせています。ご協力ありがとうございます。

#### リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成23年7月: **19.1 t**

NGP 1月からの累計: **93.8 t**

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO<sub>2</sub>排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

※リターナブル梱包材はドア・フェンダー用に加えて2月よりバンパー用の運用を開始しました。

## 第21回中級研修会を実施

# 自覚を新たに組合員各社のリーダーが巣立つ

NGP 協同組合は、8月1日～5日まで静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで第21回中級研修会を実施しました。全国の組合員から32人の中堅社員が参加、生産・フロント・営業の現場リーダーとなるための訓練、心構えを学びました。

マーケティングの講習で管理職として重要なポイントを学んだという永田プロダクツの佐々木大さん、「何としても」という気持ち

ちのエネルギーを会社に持ち帰り、目標達成につなげたい。相手の立場、気持ちを理解して絶えずコミュニケーションを取り、プラスエネルギーを業績向上につなげます」と研修を通してリーダーとしての目標を設定しました。

太田部品の長田和也さんは「噴射ポンプの講義ではひとつひとつ分解して部品の働き方や取り扱い時における注意点などを教えていただきました。部品を生産するとき、

自分なりに勉強してやってきたつもりですが、講師の方の話を聞くとまだまだ意識が低いと感じました」と言っています。技術講義の内容も目からうろことなったようです。

また、「自分のレベルアップができたように思う」と話す多田自動車商会の西山明延さんは、研修直後の会社の朝礼で「NGP 三大信条」「あいさつ五大用語」を全員の前で全力で唱和しました。「皆が忘れかけている研修会で学んだ熱いものを伝えたいから」だそうで、リーダーシップのあり方を即実践に移しました。

「中級研修で学んだマネジメント技術を会社に持ち帰り、自分の業務に取り入れて、会社の利益に貢献します」（ケーエー車輛、田中秀和さん）、「マネジメントの授業で習得したことで、職場風土を変え新しい環境を作っていきます」（永田プロダクツ、佐々木優さん）など参加者それぞれが職場のリーダーとしての自覚と決意を新たにしました。



マーケティングの知識もリーダーにとって必要不可欠だ



具体的にわかりやすく現物で学ぶ技術研修

## 新入会員2社の初期指導を実施

8月23、24日の2日間、東京都江東区のBumB東京スポーツ文化館で初期指導研修会を実施しました。南関東支部のメイト会員だったオレンジパーツ平成（静岡県葵区）、アンドーカーパーツ（静岡県下田市）の2社を正組合員に迎えるためのもので、2社はNGP組合員による的確な指導を受けていたため、通常の研修期間を1日短縮した初期指導となりました。

オレンジパーツ平成の松山稔取締役、アンドーカーパーツ安東弘至代表取締役の代表

者と両社のフロントマン、生産管理者の6人が参加し、NGP協同組合の沿革や基本理念などを改めて学びました。

修了式で大橋岳彦理事長は「NGPは大石名誉顧問の理念と組合員それぞれの強い信念でもって発展することができました。両社ともに組合員としての自覚を持って前進を続けてください」などと激励しました。

オレンジパーツ平成の松山取締役は「NGPグループの一員として他の組合員の皆様と協力し、グループの発展及び売上金額



新入会員2社を激励する大橋理事長

アップに貢献します」、またアンドーカーパーツの安東代表取締役は「(慣れ合いを改めて)今回の研修で学んだことをすべての社員に伝えます。そして地域に社会に必要な会社を作ります」などと、決意表明しました。

## 組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
九州	株式会社パーツランド東部	代表者変更	代表取締役 川上 豊	23年 8月16日

## 訃報

8月1日、桃太郎部品（岡山県岡山市）岸本好章代表取締役様のご母堂、岸本艶子（きしもと・つやこ）様をご逝去されました。享年95歳。

8月4日、福山セコ（広島県福山市）藤原庸正代表取締役の御尊父で、同社代表取締役会長の藤原廣治（ふじわら・ひろはる）様をご逝去されました。享年73歳。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
 TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209  
<http://www.ngp.gr.jp>

### 株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
 TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201  
<http://www.ngp.co.jp>